



干支コレクションアワード「巳」2位獲得！

藤原 智晴・清水 裕子（産総研 地質調査総合センター地質情報基盤センター）

地質標本館は、インターネットミュージアム(以下アイエムという)が主催する「ミュージアム干支コレクションアワード 2025 巳」に挑戦し、おかげさまで2位を獲得しました！

2024年11月下旬にアイエム(運営:丹青社グループ)より2025年の干支が入っている館蔵品で人気投票を開催する旨の連絡がありました。投票期間は、2024年12月11日～2025年1月24日でした。この企画は毎年行われているものですが、地質標本館からはエントリーしたことがありませんでした。同様の企画で、ミュージアムキャラクターアワードには「杏桃ちゃんと騎士くん」で過去に2度エントリーしていて、6位入賞の実績があるので、今回はこれより上の順位を狙いました。

地質標本館で「へび」が入った展示物と言ったら…ありました！アンモナイト階段の下でひっそりと、とぐろ？を巻いて怪しい深緑色に輝いている「蛇紋岩」(写真1)です！これでエントリーしましょう！ということになり、早速エントリー用の写真を撮影してみたのですが、深い緑でガラス光沢の石はなかなか手ごわい。そこで、宣伝コピーでそのあたりをフォローします。

「作者：マントル 年代：ジュラ紀(1億5千万年以上前) 沈み込んだプレートから絞り出された水が、マントルに浸透してできた岩石です。日本列島が未だない大陸の時代に、地下深部から岩盤を貫いて上がってきました。現在は関東山地の北部に分布しています(採取地：埼玉県寄居町釜伏山)。深い緑の蛇のような模様が特徴で、なめらかな肌ツヤが素敵です(写真2)。地質標本館が所蔵する多くの岩石・鉱物・化石の中でも、とりわけ多くの来館者を魅了

する貴重な標本の一つです。」

なかなかキャッチーで、実物の質感もフォローしたコピーも出来上がり、いよいよエントリーです。主な参加者は全国の博物館や美術館なので、これは異彩を放つだろうと思っていたのですが、いざ始まってみるとエントリーされた57点の中に蛇紋岩は当館を含め3点ありました。これはちょっと想定外でしたが、他の蛇紋岩に負けるわけにはいきません。

投票開始初日に地質標本館公式Xにも投稿、展示においても映像室前の目立つところに標本を移動し、スポットライトを当てると標本は輝きを増します。スタートダッシュは上々でした。投票期間中は、空き時間を見つけて標本の前に立ち、来館者に蛇紋岩の説明を行います。来館者の皆様も好意的で、人気投票が行われていることを伝えるとその場で投票してくれます。途中経過は常に上位(3位から5位)をキープしていて、2位にも届きそうなところで最終週を迎えました。上位入賞を目指して来館者への応援のお願いにも熱が入ります。

結果は、2,570票を頂き、おかげさまで2位でした！グランプリに輝いたのは、教科書でもおなじみの「国宝《金印「漢委奴国王」》(福岡市博物館)2,818票」(持ち手が蛇だそうです。)で、これにせまる快挙となりました。現在(2025年7月7日)は、地質標本館入口(風除室)に凱旋展示していますので、ご来館の際にはぜひご鑑賞ください。

最後になりますが、投票いただいた皆様、応援メッセージを頂いた皆様、企画にご協力いただいた皆様ありがとうございました。



写真1 クリスマスのころの展示の様子。



写真2 エントリーした蛇紋岩(GSJ R81796)。条線がたまりません。